

令和6年度 第2回 四街道市立図書館協議会会議録

日 時 令和7年3月28日（金）午前10時～12時
場 所 四街道市立図書館3階 会議室
出席委員 米元委員、池田委員、川又委員、大塚委員、重田委員、日野委員、森田委員、山口委員
欠席委員 浅沼委員、大和久委員
事務局 田島課長、齋藤館長、成瀬係長、小野主任司書、久保主事
傍聴人 1名

【会議次第】

1. 開 会
2. 社会教育課長挨拶
3. 会長挨拶
4. 会議の公開等
 - (1) 会議の公開
 - (2) 会議録の作成
 - (3) 議事録署名人
5. 議題
 - (1) 令和6年度図書館サービス計画進捗状況について
 - ・進捗状況報告
 - ・図書館システムの更新・わろうべの里の読書拠点化
 - ・図書館魅力創造プロジェクト
 - ・図書館内環境整備
 - (2) 令和7年度図書館サービス計画（案）について
 - ・予算（案）
 - ・サービス計画（案）
 - ・おしごと体験イベント
6. 閉 会

【会議経過】

5. 議題

（日野会長）まず（1）の令和6年度図書館サービスの計画進捗状況について、項目ごとに事務局から説明をお願いします。

（事務局）～令和6年度図書館サービス計画進捗状況について説明～

（日野会長）ありがとうございました。委員の皆さまからご意見・ご質問などございましたらお寄せください。小学校との連携も大分浸透してきていると実感しているところですが、池田委員、いかがでしょうか。

（池田委員）はい、学校の図書室の本の数には限りがありますので、市立図書館から本を提供いただけるというのは、子どもたちの学びにとってとても役に立っています。各学年の授業の教材、例えば、低学年だったら「はたらく自動車」という単元があるんですけども、車の種類を調べたい時に、一人一冊本が必要になります。そんなときに学校の本の数には限りがあります。支援をいただけるのは本当に助かっているところです。引き続き、よろしくお願いいたします。

（日野会長）ありがとうございます。前回の会議でお示しいただいた時点からかなり展開が進んだ印象があります。また、各施策に関して、全体的に計画通り進めていただいていると実感したところです。

裏面の 20 番の「自学自習席」につきまして、委員の皆さま方のテーブルの左側に案内文がついていますが「えんぴつルーム」という形で活用をされているということで最大限図書館を有効活用されていることを認識しているところです。

続きまして「図書館システムの更新」「わろうべの里の図書館読書拠点化」につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局) ～図書館システムの更新・わろうべの里の読書拠点化について説明～

(日野会長) ありがとうございます。委員の皆さまから感想・ご意見などございましたらお寄せください。

幅広くスポットを置いていただくのは非常に利用者にとっては有難いことです。

例えば、図書館で借りた本を、わろうべの里で返却することも可能、という理解でよろしいですか？

(事務局) 可能です。

(日野会長) はい、ありがとうございます。

以前よりも利便性が増したと認識しておりますので、今後とも、スポットの整備をお願いしたいと思います。では、資料 2 については、以上とさせていただきます。

続きまして「図書館魅力創造プロジェクト」のご説明をお願いします。

(事務局) ～「図書館魅力創造プロジェクト」について説明～

(日野会長) ありがとうございます。資料 3-1、3-2、追加資料含めまして委員の皆さまから感想・ご意見などございましたらお寄せください。

(山口委員) 「カメラと健康と」のプログラムにつきまして、共催で、千葉大学予防医学センターさんの名前が挙がっていますけれども、大学との連携って結構大事だと思うのですが、具体的にどんな形で参加されていたのでしょうか。

(事務局) まずはデータという所で、アンケートの項目作りにつきまして、ご協力をいただいています。予算面においても、今回は健康といった視点で、今後も継続で利用するという事で、チェキを購入させていただきました。

(日野会長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。

(山口委員) テーマとして「カメラと健康と」となっていますが「健康」という点で、何か関わりがあったのでしょうか？

(事務局) 一度ワークショップを行っただけで元気になる、というのはなかなか難しいと思うので、今後の前段として、アンケート調査を実施しているところでございます。今後、どのように追いかけていくかという点で、現在検討している状況です。

(日野会長) ありがとうございます。カメラ撮影と健康との因果関係に関するデータの蓄積も必要ですね。1 回だけでいきなり元気になる、ということはおそらく無いと思われますので、どれくらいカメラによって健康状態が良好になるのか、継続的に千葉大学さんの研究機関にデータの収集をしていただく。その連携というのは、非常に新規性があり、必要性も高いと思いました。

次に、資料 3-1 のところで「さとたねカフェ」など、図書館を活用した非常に良い取り組みもあり、図書館を基軸にしながら人と人がつながるコミュニティの場づくりという企画も素晴らしいと思います。一方で、図書館の施設面において、改修・改築など、リフォームすべき箇所というのは、実際どうでしょうか。

(事務局) 狭小な施設なので、ゾーン分けが非常に難しいところがあります。老朽化した部分を直すという視点とは違ってきますが、「どう棲み分けていくか」の意識づけの部分を重要視してきました。なかなかすぐには建物が直せませんので、“こういう空間もありますよ”ということを利用者の方に少しずつ理解いただけるよう工夫してきました。

(日野会長) 例えば、先輩ママとの交流の場などで、子育てで不安があるという方に向けて「こんな本を推薦しますよ」など、関連する本に触れられるようなルートを作るといいなと思います。

場作りの中でも、テーマごとで参加者の方に読んでもらいたい本を市民の方々や図書館の職員さんからも推薦いただきたいですし、育児でお困りの際に利用可能な相談機関との連携なども、有効ではないのかなと感じました。その他、いかがでしょうか。

大塚委員、これまでの取り組みに関して、感想などいかがでしょうか。

(大塚委員) 素晴らしいと思います。最近、千葉市の図書館にも足を運んでおり、こちらと少し違うなと思った点が、あちらの図書館は施設も充実していて色々なイベントや講座ができるお部屋がいくつもあります。扉を閉めてしまうので、何をしているかが分からないんです。

こちらは、狭い分、仕切りが無いので色々な人の目についていいなと思います。

スーパーにも本を置かれたということで、本を嫌いだという子や、本から離れている人たちも呼び込めますし、視覚的にアピールされているところがいいなと思いました。

(日野会長) 図書館だけでなく、図書館のハブとなる拠点が幅広に形成され始めてきており評価できると思います。例えば、スーパーマーケットも巻き込んでこのような活動をしているというのは、非常に先駆的だと思いますし、素晴らしいなと思います。

その他にも、人が立ち寄りやすい銀行や郵便局なども良いかもしれませんね。高齢者の方も若い方も来るような場所も、図書館との関係性を深める所として連携するのでもいいのかなと思いました。

川又委員、いかがでしょうか。

(川又委員) 今まで子ども対象のイベントが多かったのですが、「カメラと健康と」は、概ね 65 歳以上ということで、高齢者にも目を向けてもらったというのが非常に嬉しかったです。

(日野会長) 各種イベントが多世代に広がって、企画を運営されているなと思いました。ありがとうございます。

重田委員、いかがでしょうか。

(重田委員) 四街道が新しいことにチャレンジしているというのは、私はあまり知らなかったもので、すごく浸透してきているのだなと思いました。ただ、子どもさんの場合は活性化してきているのですが、高齢者の独居老人や集える場が無いという方は多いと思うのです。会社でしっかり働いた方たちも、終わってみると孤独になってしまうような場合もあるので、高齢者を引っ張り出すような場をもう少し工夫いただけるといいなと思います。

公的な場は敷居が高いと思うので、高齢者も家から出かけようと思えるような、何かもうひとひねりアイデアがあれば、全国から注目されるのではないかと感じます。

(川又委員) 障害者の方への取り組みやお考えなどはあるのでしょうか。

(事務局) 障害者施設との連携はさせていただいており、駅の図書館の補充作業もお願いしています。

また、障害者の方が描かれた絵を皆さんに見ていただけるよう、アートもかなり取り入れています。本に関わっていただくという面では、配送サービスもしております。

(日野会長) ありがとうございます。情報保障という観点も図書館の機能として必要ですから、そういうサービスは拡充していただきたいと思います。

高齢者の方を企画にお誘いするという点については、自治会や町内会に移動図書館のような形で入って、コミュニティを作ったり読書会を開いたりなど、孤独にならない、孤独にさせないという施策の中で、図書館としての役割はかなり大きいかなと思います。市民の皆様方からもアイデアをいただけるといいですね。

(事務局) 連携協定している岩渕薬品さんのご協力で、機器を持ち込んで健康チェックをしていただいたのですが、たくさん的高齢者の方が利用してくださいました。その中で、簡単な健康相談などは行ったことがあります。そのようなことを定例的に行ったり、市役所の健康部局とのつながりなど、相談はしていますが、具体化はしていない状況です。

(日野会長) 引き続き、積極的に検討いただけたらと思います。他、感想などいかがでしょうか。

(米元委員) 色々と新しいことをしていただいていると思うのですが、行政だけが行うと人員も限られていますし

大変だと思います。やはり、地域の方々が、自分たちの地域をどうしようか、どういう風に生きようかということを考えていけないのかなと思います。

さとたねカフェや多世代まつりなどの様々な世代の方々は、ボランティアとして参加してくれたのか、どのように集めて、どれくらいの方が参加してくれたのか教えてください。

(事務局) 人とのつながりほど信用できるものは無いといった点で、広報紙や空間への呼びかけは、多くの人の目には触れるのですが、そこに関係性が無いと薄いまま終わってしまうことがあります。今回に関しては、まず自分たちに近い方々に協力をお願いしたところから、今回のさとたねカフェから多世代まつりへの流れがございました。

高齢者の方が7, 8人ほどイベントに協力してくださったり、地域のママさんもママコミュニティの中で、十数名ボランティアで関わっていただきました。

今回はこのように「まずは自分の近いところから輪を広げていく」という動きがありました。

(米元委員) そのように広がっていくと、先ほど重田委員もおっしゃっていたところにつながっていくのかなと感じました。

(日野会長) ありがとうございます。森田委員、いかがでしょうか。

(森田委員) 感想としまして、全般的に非常に多様な活動をされていて素晴らしいと思いました。公的機関として、色々なミュージアムなどが取り込もうとしている潮流をほぼ全て追っていると感じます。例えば、外の機関と共に作る「共創」や、マイノリティへ向けて色々な人を巻き込んで届けていく「アウトリーチ」のような取り組みなど、良いポイントを押さえた活動を展開されているなど感銘を受けました。

その多様な取り組みに、先ほど日野会長もおっしゃった、知識や情報にアクセスしていくというハブ的な機能も深めていただけるとより素晴らしいなと思っています。

提案としましては、「よりマイノリティに」という視点で、外国人の住民というところにも何か工夫があるといいなと思いました。

『しだれざくら』を拝見して、絵の作品にカタカナのお名前の中学生がいらっしゃって素晴らしいと思いました。このように参加が目に見える形で、市民として存在を理解できるような活動も良いと思います。すし、その方々に直接被益するようなサービスもあるといいのではと感じ、提言したいと思います。

質問なのですが、多くの取り組みを今後継続していく際の課題と思われること、もしくは、運営側として、委員や市民からこういう協力がほしいと思われることがあれば伺いたいです。

(事務局) いただいた提言の部分につきまして、夏休みにペルシャ語の翻訳家の方に協力いただいて、ペルシャ語の読み聞かせ会を1回開催しました。ペルシャ語圏のコミュニティの方に入っていていただいて参加を呼びかけ、読み聞かせを行った後、外国籍のお子様が多い大日小学校と翻訳家の方をつなぎまして、授業などで活用したいというお話をいただいているところです。こちらの図書館でもまた、機を見て開催していきたいと考えております。

読み聞かせの会のエピソードとしまして、日本人の親子の方が入ってくださったのですが、言葉は分からなくてもその場を楽しんでいただいた姿が印象に残っています。

課題につきまして、地域のつながりを大切にしていますので、そこを途切れさせずコミュニケーションを丁寧に重ねていくにはどうしていけば良いのかというところです。予算を介した契約という訳ではないので、ここのセクションに限らず、これから行政に求められていく役割だということを我々からも共有していかないと「予算が無いから終わり」という状況が往々にして起き得る可能性があります。そのバランスをとるのが難しいですが、うまく噛み合ってくると大きな力になるということが、今回さとたねの皆さんとの関わり合いの中で見えてきたところです。

(日野会長) ありがとうございます。最後の点が大きな論点で、市の年間予算が劇的に増えるというのは難しい中で、地域をうまく巻き込んでいく、地域が図書館を育てていく、といった姿勢をいかに理解していただくかということが重要です。そうした観点で、ここ数年、様々な企画を立ち上げていただき、実行に移

していただいていると思います。すぐに成果が出るものではないと思いますが、徐々にそういった風土ができていくといいなと思います。

続きまして、資料4の「図書館内環境整備」について説明をお願いいたします。

(事務局) ～「図書館内環境整備」について説明～

(日野会長) ありがとうございます。先ほどもお話がありました障害者アートの絵が描かれていますが、こういった形で多様な方々、誰一人取り残さないという参加型の整備をしていただいているという認識を得ました。ちなみに、DIYは一般の方がしてくださったのでしょうか？

(事務局) はい、得意な方にお声がけして、作業をしていただきました。

(日野会長) 大分リニューアルして綺麗にさせていただき、また、有効活用が叶う環境になっていると思いますので、後ほど、委員の皆さまにも参観いただけたらと思います。

資料4はこれでよろしいでしょうか。では、資料5の「令和7年度図書館サービス計画(案)」について説明をお願いいたします。

(事務局) ～「令和7年度図書館サービス計画(案)について」説明～

(日野会長) ありがとうございます。資料1で今年度のご報告を先にいただいていますので、これと比較参照いただければと思います。例えば電子書籍は、180冊から次年度は100冊になっていますがここは予算の関係があるという理解でよろしいですね。また、10番の郷土資料の収集は特に内容としては変わらないということですね。

今年度通りで、かつ、予算がついた部分を少しボリュームを上げてやっていただくということになりますね。よろしいでしょうか。

続いて、予算のところですね。ご説明をお願いいたします。

(事務局) ～「予算(案)」について説明～

(日野会長) 詳しくご説明ありがとうございます。各委員の皆さまからご質問などいかがでしょうか。

(森田委員) まず、トイレの改修は喜ぶ方が多いと思います。私も高齢者の方から「和式だと膝が曲がらないので、トイレは文化センターまで移動している」というようなお話も聞いていました。先ほど話題に出た高齢者支援という点でも非常に有難いと感じます。

1点目の質問ですが、どのような公的施設も管理運営の委託という点が頭が痛いところだと思います。資料にある、施設総合管理委託料が今年度に比べると110万くらい下がる予算になっているので、どのように管理運営できるのか、委託する内容を減らす形になるのか、計画を伺いたいです。

2点目も同じく委託料のところなのですが、資料管理整備事業の12番図書館業務委託料ですね、こちらも額面上は上半期下半期それぞれ、5年度6年度と比べると減っているように思います。以上2点、質問させてください。

(事務局) 図書館管理運営事業の施設総合管理委託料ですが、こちらは昨年度の途中で長期契約の期限が来まして入札をいたしました。こちらの6年度の予算は、最初、多めに見積もったものです。実際入札を行いましたら大分金額が落ちましたので、7年度はそちらを踏まえて適正の額となっております。

図書館業務委託は6年度の予算額としましては資料の通りなのですが、7年度の予算としましては、こちらの上半期と下半期の2段を足した額となり、増額となっております。分かりにくい表記で申し訳ございません。

(日野会長) 増額しているということですかね。

(事務局) はい、上半期と下半期の額を足しますと、増額という形になります。

(森田委員) 6年度予算額、5年度決算額も、通年でこの数値ということですね。分かりました。

(日野会長) はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

(川又委員) 予算と離れるかもしれないのですが、ガラス窓に「図書館」と紙で貼ってあるのですが、寂しい印象があります。実際に色々を行っている活動もありますし、中と外がマッチングするような、目で見て活

性化が分かるようなものがあるといいなと思います。

(日野会長) 確かに、手作り感があって、良い意味で親しみやすさはありますね。

(事務局) 以前、地下駐車場に入ってくる脇の辺りに、高いポールに四街道市立図書館と金属板が付いているものがあったのですが、経年劣化で腐食があり、早く撤去しないと危険ということになりました。

(川又委員) 入口には表記があるんですけどね、遠くから見る目印としては寂しいかなという印象です。

(事務局) 撤去したままになってしまっていて、申し訳ございません。

(日野会長) そういったところは、なかなか予算は難しいでしょうか。

(事務局) ここはまた、工夫していきたいと思います。おっしゃる通り、案内サインは私も大切にしたいなという思いがありまして、その表現でどう見えるかが変わってくるので、検討してまいります。

(重田委員) 鈴木市長が【本のまち、四街道へ】とおっしゃっている訳ですが、私の持論としては、共通の5つのビジョンを掲げたらまとまりができると思うんです。

よむことば／かくことば／はなすことば／きくことば／かんがえることば。この5つに、すべて当てはめることができると思います。例えば、作文は「かく」、読書会は「よむ」「はなす」など。最後に一番大事なものは「かんがえることば」なのですが、読書というのは、そのステップを踏んでいます。提案ではありますが、この「5つのちからをつける四街道」というビジョンの中核に図書館があるんだというイメージのもとで、様々な事業を行っていくと活動の位置づけが見えてくるのではと思います。

(日野会長) ありがとうございます。5つのちからというのが、ひいては生きるちからにもつながってくるでしょうし、図書館がハブになって、市民の方々がそれを身につけて社会活動をしていくという良い循環ができるいいと思います。そのために、先ほど出ました図書館の看板も、図書館の役割をしっかり伝えるという意味での看板の効果は大きいのかなと思います。全国的に言うと、ネーミングライツなどを行っている事例も多いですが、そういったところからもお金が出るようであれば活用しながら、図書館のブランド力を上げていくのも合理的な進め方かとも思います。

貴重なご意見ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

(山口委員) 図書購入費ですが、過去3年間、ほぼ増えていないという認識でよろしいでしょうか。

(事務局) はい、そうです。

(山口委員) はい、ありがとうございます。

(日野会長) そこは、考え方としては、増やす・増やせない、色々な理由があると思うのですがいかがでしょうか。

(事務局) 全体を見て図書館以外の総合的な判断がある中で、どこに予算をつけていくかが難しい為、努力を続けるしかないというところです。

(山口委員) 設備費は、毎年増えているんですね。

(事務局) 増えざるを得ないような環境にもなっている状況です。

(日野会長) ハード面とソフト面どちらを優先的にするのかという問題もありますし、公共図書館である以上は、危機管理の観点で、万が一の、何かあった時に困ってしまう訳ですし、市民の方々が安心安全な形で利用いただくことが大事ですよね。その上で、ハード面を補強的に対応しながらも、蔵書の拡充、インターネット上のツールも使いながら行っていく、という理解でしょうか。蔵書を増やすとスペースの問題もありますし、政策的な判断をいただく形になるかなと思います。委員の皆さまからのご意見いただきたいところですね。

会議室も、足元を見ていただくとお分かりの通り、年季が入っている状況ですので、ご利用者がつまずいたりしないよう安全安心というところは必要なのではないのでしょうか。

その他、いかがでしょうか。

(森田委員) 先ほどの重田委員の発言にも強く同意して、コメントさせていただきます。図書館事業に関しても、市民・大学・企業などにも分かりやすく届くようなコンセプトを、市とセットして打ち出せると非常に

良いなと思いました。理由としては、成果がより伝わるという発信の時のコツにもなりますし、予算の有無に関わらず持続的に参加いただく点にとっても協力なり参加が得やすくなるかなと。事務局の皆さんが色々な活動をしていく中で、図書館がそこまでやることなの？と反対意見が出た際に、こういうミッションステートメント、こういう戦略に基づいての活動なのだと、現場で動く人が動きやすい枠組みを作るということがすごく助けになると思います。

私も今公的な独立行政法人で働いていますが、外部の協力を得るときに説明していくという点では、相当意識して時間をかけてやっていますので、非常に多彩で素晴らしい活動を説明する仕組みをぜひ作られるといいかなと思います。

(日野会長) ありがとうございます。運営方針の中には、そういったスローガンのようなことは入っているのでしょうか。

(事務局) サービス計画でも今図書館が掲げている「5本の柱」をどう解釈していくか、皆さんが当事者意識を持って、自分ごととしてどう捉えるかというところまで落とし込んでいかないと、計画を作って終わりにになってしまうので、そこは我々の努力を重ねていく部分だと思います。

(日野会長) ありがとうございます。今回、別件ですが、本市で新たな四街道市総合計画第1期基本計画（HAPPY SMILE PLAN -笑顔と笑顔をつなぐ街 四街道-）ができて一般市民の皆さんにわかりやすいリーフレットを配布していますよね。

ああいったようなもので、図書館の運営方針や、もう少しかみ砕いた形で市民の方に伝えていく。図書館って、本を借りるとか貸すとかだけではなく、こんなイベントを通じて、人と人がつながるコミュニティを作っているんだとか、多世代の方々を巻き込んで地域が図書館を作り上げていくなどといったスローガンのもとで、今も、また今後も運営されている、ということを、丁寧に伝えていくのは必要なかなと感じましたね。そのような方向性で検討いただけると嬉しいですね。その他、いかがでしょうか。では最後、資料7の四街道市の「おしごと体験イベント」についてご説明をお願いします。

(事務局) ～「おしごと体験イベント」について説明～

(日野会長) ありがとうございます。イベントの受け入れということですね。

職員の皆様方の勤務の状況も踏まえて、設定いただいているという理解ですよね。

(事務局) 詳しく書いてあるのは最後の会見スケジュールというページになります。

～「おしごと体験イベント」について詳細説明～

(日野会長) ありがとうございます。対象が小学4年生以上ということで、小学生が参加しやすい内容にするにはどうでしょうか。池田委員、いかがでしょうか。

(池田委員) はい。押し本会のように、おすすめの本の紹介や、自分はここが良いというところをPOPなど端的なものにまとめるということは、とても楽しく取り組むだろうなと思います。本校では6年生の児童が、1年生の教室に行って紙芝居を読むのですが、紙芝居も自分たちで作ったお話を絵に書いて読んでいます。ですので、2番の内容も非常に楽しくできるかなと感じました。まだ依頼の連絡はこちらに来ていないので、この後来ることを楽しみにしています。

(日野会長) ありがとうございます。では米元委員をお願いします。

(米元委員) こちらは、1から3までは、小学4年生以上の子どもたちが取り組むということなのですか。例えば、3番は0歳から3歳のお子さんで行うということでしょうか。

(事務局) はい、すべて小学4年生以上の子どもたちが取り組みます。一緒にわらべうたなどを歌ってもらったりします。

(米元委員) 学校でキャリア教育ということで色々やっているのですが、市でも行っていただけると、子どもたちが学んでいることと、社会との繋がりというのが、実感できるのでとてもいいなと思います。

(日野会長) ありがとうございます。

良い体験ですよ。先ほどおっしゃったようなキャリア教育にも資するわけですし、実際に図書館の

仕事内容も分かるということで、企画としても非常に素晴らしいと思います。昨今、館長を中心に色々な企画を立ち上げていただいているからこそ、逆に、小学生の方が企画をしてみるなど、そういった企画もよいですね。

例えば子育て世代など、多世代を巻き込んだ企画をされていますので、こういう企画だったら面白いだろうな、企画を作ってみようかなという機会を設けてみる。小学生もわくわくすると思います。

次年度、自分の企画が通ったり、逆に通らなくても、本人たちは達成感を得られるのではと思いますので、小学生の目線でイベントを作ってみるというのは、面白いかもしれないと思いましたね。

では、資料7については以上とさせていただきます。

ちょうど1時間半ということになりまして、非常に長丁場ありがとうございました。

6. 閉会

（日野会長）以上で、令和6年度第2回図書館協議会を閉会いたします。皆様方ありがとうございました。